



立方体マトリックスの変化による無機的世界から生命感の現れへの例

一個の立方体自体はひとつの典型的な幾何体です。立方体は人間の視覚にとっては無機質な形態で、そこから命を感じとることは難しいものです。

数値・方程式で絵画作品を創り始めたとき、はじめは単純な幾何の風景、静物空間でした。徐々に私なりに複雑な幾何のアルゴリズムがこなせるようになり、あるとき視覚的な植生(※)を創り出すことができました。この時の一種の興奮をもって、ある期間作品を制作し、その間も数式による創作を発展、深めてきました。そうして、この数学的な方法が進歩する過程で、植生的世界ではまだ顕れていなかった、生命的な感動をもった‘かたち’が芽吹きはじめました。

解りやすいひとつの例の立方体による作品を示します。

- ① 立方体がそのまま幾何的に柱状に積み上げられた、いわば無機的な形態。
- ② 立方体のマトリックスを人工的ランダムではなく方程式で少し変化させた。見る気持ちに少し変化がでるのでは？
- ③④ 一つ一つの立方体のマトリックスが方程式で関連づけられているからこそ、動的な生命感が見えてくる。
- ⑤ 全体の形にも変化の関連づけを与える。これが ”いのちのかたち” として、私の絵画の世界になります。

①～⑤の変化では命の現象が‘かたち’でビジュアルに顕れてくるのがわかります。このように作品への‘かたち’を数式で探ることが私のデッサンになり、制作の重要な過程です。

